

専門部会報告シート

資料 4

部会名	相談・くらしの部会	報告回	令和4年度第1回全体会																																	
委員氏名	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>氏名</th><th>選出母体及び役職等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>◎原 郷史</td><td>地域生活支援センターふらっと センター長</td></tr> <tr> <td>2</td><td>○松林 宏</td><td>J P S訪問介護ステーション 管理者</td></tr> <tr> <td>3</td><td>吉田 真介</td><td>地域生活支援センター Plaza 施設長</td></tr> <tr> <td>4</td><td>高橋 美佳</td><td>地域生活支援センターあけぼの 所長</td></tr> <tr> <td>5</td><td>玉上 博康</td><td>ワークショップさかえ 施設長</td></tr> <tr> <td>6</td><td>樋島 剛之</td><td>障害当事者</td></tr> <tr> <td>7</td><td>田村 智久</td><td>府中市パーキンソン病友の会 会長</td></tr> <tr> <td>8</td><td>西浦 友恵</td><td>知的障害者相談員</td></tr> <tr> <td>9</td><td>荒畑 正子</td><td>府中市精神障害者を守る家族会 理事</td></tr> <tr> <td>10</td><td>田中 研二</td><td>府中市社会福祉協議会 地域福祉部地域活動推進課 長補佐兼権利擁護課長補佐</td></tr> </tbody> </table>				氏名	選出母体及び役職等	1	◎原 郷史	地域生活支援センターふらっと センター長	2	○松林 宏	J P S訪問介護ステーション 管理者	3	吉田 真介	地域生活支援センター Plaza 施設長	4	高橋 美佳	地域生活支援センターあけぼの 所長	5	玉上 博康	ワークショップさかえ 施設長	6	樋島 剛之	障害当事者	7	田村 智久	府中市パーキンソン病友の会 会長	8	西浦 友恵	知的障害者相談員	9	荒畑 正子	府中市精神障害者を守る家族会 理事	10	田中 研二	府中市社会福祉協議会 地域福祉部地域活動推進課 長補佐兼権利擁護課長補佐
	氏名	選出母体及び役職等																																		
1	◎原 郷史	地域生活支援センターふらっと センター長																																		
2	○松林 宏	J P S訪問介護ステーション 管理者																																		
3	吉田 真介	地域生活支援センター Plaza 施設長																																		
4	高橋 美佳	地域生活支援センターあけぼの 所長																																		
5	玉上 博康	ワークショップさかえ 施設長																																		
6	樋島 剛之	障害当事者																																		
7	田村 智久	府中市パーキンソン病友の会 会長																																		
8	西浦 友恵	知的障害者相談員																																		
9	荒畑 正子	府中市精神障害者を守る家族会 理事																																		
10	田中 研二	府中市社会福祉協議会 地域福祉部地域活動推進課 長補佐兼権利擁護課長補佐																																		
	※部会長は◎、副部会長は○																																			
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度内容を検討してきた障害のある方のための防災ハンドブックが近々に完成し配布が始まる予定。 ○第7期自立支援協議会において整備手法及び必要な機能について答申した府中市における地域生活支援拠点等については、整備の進行状況や実際の運用状況を引き続き自立支援協議会において把握・検証していく必要がある。 ○自立支援協議会は地域課題の抽出及び解決に向けて協議される場として機能していく必要がある。またその機能をより高めていく必要がある。 																																			
検討テーマ (概要)	<ul style="list-style-type: none"> ○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施 ○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証 ○地域課題の抽出 																																			
取組経過	<p>【令和4年度の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護人材不足は、それ自体が大きな地域課題の一つである。また、地域生活支援拠点等が果たすべき役割の一つに「専門的人材の育成機能」があるが、どのように人材が不足しているのか実態を把握しなければ人材育成の量的な目標や質的な方向性を設定できない。このような問題意識から、まずは介護人材不足の実態を調査する手法を検討し、実際に調査し、調査結果を分析した上で府中市における量と質両面での介護人材不足の実態を浮き彫りにするとともに、調査結果を踏まえて府中市における介護人材不足の解消への道筋の提言を目指す。 ○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証については、引き続き当協議会において進めていく。 ○地域課題の抽出については、相談支援専門員が行う個別支援会議や特定相談支援機関連絡会で行う事例検討等を通じて、運営会議に地域課題が集約する流れが定着しつつある。また、昨年度実施された「これから府中市の障害者福祉にお 																																			

	<p>ける支援体制のありかたを考える懇話会」においても様々な地域課題が参加者から提示された。各委員が把握している地域課題を直接協議会に提示することも昨年度と同様に行われていく予定。</p>
検討結果	<p>1 介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施について</p> <p>(1) 調査対象分野</p> <p>前年度に訪問系サービスの調査票原案が作成済みであることもあり、まずは訪問系サービスにおける調査を先行させるが、日中活動系、居住系、相談支援系においても人材不足は深刻であり障害当事者やその家族の生活に多大な影響を与えていることから、まずは訪問系サービスにおいて調査手法を確立させた上で可及的速やかに他のサービス分野の調査に着手することを目指す。</p> <p>(2) 調査主体</p> <p>前年度では、次期障害福祉計画策定のために障害者計画推進協議会において実施されるアンケートに介護人材不足の実態を明らかにする設問内容を盛り込んでもらう案も検討されたが、当該アンケートにおいては府中市における介護人材不足を客観的に明らかにできるだけのボリュームのある設問内容を盛り込むことはアンケート全体のバランスから考えると不可能であろうことが想定されたため、当専門部会が事務局の協力のもとに主導的に独自に調査を行う事とする。</p> <p>(3) 調査目的</p> <p>府中市における介護人材不足の声は事業所側からも障害当事者や家族からも上がってきていているが、具体的にどのくらい（量的に）どのように（質的に）不足しているのかが把握できない、との認識がされている。よって今回の調査で可能な限り介護人材不足の実相を量的かつ質的に明らかにして、府中市において介護人材不足を解消する施策を検討する上での材料を収集することを第一の目的とする。またあわせて、調査結果を踏まえて協議会としても答申書において求められる施策を提言する予定である。</p> <p>以下の記述は当面実施予定の訪問系サービスにおける調査に絞る。</p> <p>(4) 調査手法</p> <p>市内のすべての訪問系サービス事業所を対象としたアンケートと、抽出した事業所を専門部会にオブザーバーとして招いてのヒアリングを組み合わせる。全事業所対象のアンケートにより調査結果の妥当性に根拠を持たせるとともに、ヒアリングによって「人材不足の実情」・「各事業所の人材定着や育成の努力の内容」・「人材不足解消のために必要だと考える事」等を生の声として聞き取り調査結果に血を通わせる。</p> <p>(5) アンケートについて</p> <p>多忙な事業所にアンケート回答への協力を仰ぐため、この調査で府中市における介護人材不足の実態を「見える化」することにより府中市における人材不足解消の方途の提案を具体化し、事業所と障害当事者及び家族が直</p>

面している苦難の解消につなげていく意義を、懇切丁寧に、また網羅的(あいさつ文などにより)かつ個別的に(協議会委員による事業所への個別的な働きかけにより)伝えていく。また設問数も極力厳選し回答の負担軽減に努める。

(6) ヒアリングについて

今年度予定されている専門部会において全事業所を招集対象としてヒアリングを実施するのは、専門部会の予定開催回数(残5回)から考えても無理なため、10程度の事業所を抽出してオブザーバーとして招いてヒアリングを行う。抽出にあたっては、居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護・移動支援の訪問系サービスを多種類実施している事業所を優先的に抽出する(サービス種類によって異なる人材不足の様相を効率的に聴取できるため)。

(7) 仲間づくりの意義

府中市における地域生活支援拠点等は面的整備により、つまりは多主体の連携により府中市在住の障害当事者及び家族の日常生活を支える機能を整備・拡充していく方向性である。多忙な中でアンケートやヒアリングに協力してくれる事業所は、介護人材不足という根源的な地域課題の解決のために共に力を出してくれる仲間と言える。自立支援協議会と今回協力してくれる事業所がアンケートやヒアリングを通じて顔の見える関係を構築することは、今後様々な地域課題を解決する上でも主体的に取り組んでくれる仲間を増やしていく意義があり、地域生活支援拠点等が果たすべき「地域の体制づくり」の一環であることも自覚して腰を据えて調査に取り組む。

(8) タイムスケジュール

今後の残りの専門部会で以下のタイムスケジュールで取り組む。

第2回：アンケート及びヒアリングでの質問項目の検討、確定

(第2回専門部会後にアンケート配布並びにヒアリング招待)

第3回：ヒアリング実施

(第4回専門部会までにアンケートの回収及び集計)

第4回：アンケートとヒアリングの結果の分析と課題抽出

第5回：答申書のまとめ

第6回：予備回

2 地域生活支援拠点等の整備状況と運用状況の把握・検証について

今年度の専門部会では、地域生活支援拠点等が果たすべき機能の一つである「専門的人材の確保・養成機能」を方向付ける基礎資料となる調査の実施

に注力するが、適宜他の「相談機能」「緊急時の受け入れ・対応機能」「体験の機会・場の提供機能」「地域の体制づくり機能」における整備と運用の状況の把握・検証に努める。

3 地域課題の抽出について

地域課題の抽出については、相談支援専門員が個別支援会議を行う中で見えてきた地域課題や、特定相談支援機関連絡会で行われる事例検討、また、昨年度実施された自立支援協議会主催の懇話会や、自立支援協議会の専門部会で各委員から出される地域課題を運営会議に集約し、その課題の中から地域に存在する共通の課題を抽出する仕組みづくりは進んできているが、今後もより有効な抽出方法等を随時検討していく。

なお現況では運営会議では親亡きあととの問題、家族以外の地域資源とのつながりについて、市内の社会資源の充足について、等の地域課題が取り上げられている。

昨年度実施された「これからの中府市の障害者福祉における支援体制のありかたを考える懇話会」において様々な地域課題が参加者により提示され有意義であった。詳細は議事録を参照されたい。

また、抽出された地域課題の解決に向けて、自立支援協議会が具体的にどう動いていくのかについては、引き続き、今後の検討課題となっている。

会議開催状況と内容	日程	内容
	第1回 6月8日	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施 ○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証 ○地域課題の抽出
	第2回 7月15日	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（アンケート及びヒアリングでの質問項目の検討、確定） ○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証 ○地域課題の抽出
	第3回 未定	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（ヒアリング実施） ○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証 ○地域課題の抽出
	第4回 未定	○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（アンケートとヒアリングの結果の分析と課題

		<p>抽出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証 ○地域課題の抽出
第5回	未定	<ul style="list-style-type: none"> ○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（答申書のまとめ） ○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証 ○地域課題の抽出
第6回	未定	<ul style="list-style-type: none"> ○介護人材不足の実態の調査方法の検討並びに調査の実施（予備回） ○地域生活支援拠点等の整備の進行状況と実際の運用状況の把握・検証 ○地域課題の抽出